

EPSA(エプサ : Enhanced Priate Sector Assistance for Africa)

アフリカの民間セクター開発のための共同イニシアティブ

- アフリカの民間セクター開発を包括的に支援し、経済成長・貧困削減を促進。
- 2005年のG8グレンイーグルズ・サミットにおいて発表。EPSA1(2005～2011)、EPSA2(2012～2016)に続き、今後、EPSA3(2017～2019)を発表予定。

日本・AfDB共同で、3年で30億ドルの円借款(注)
高効率石炭火力特別枠3億ドルと合わせ、33億ドルを超える規模の資金協力

① 政府向け円借款(ACFA)

Accelerated Co-Financing Facility for Africa

◆ アフリカ開発銀行との協調融資。

◆ 重点分野

- 電力・道路などのインフラ(高効率石炭火力を含む)
- 保健・栄養不良

② 現地民間企業向け 長期資金の供給(NSL)

Non-Sovereign Loans

◆ アフリカ開発銀行が民間企業向けに行う出融資の原資として円借款を供与。

◆ 開発効果の高い事業案件に重点化。

③ 経営指導など民間企業 の能力構築(FAPA)

Fund for African Private Sector Assistance

◆ アフリカ開発銀行内に設けた信託基金経由による技術協力。

◆ アフリカ開発銀行が行う、民間企業向けの出融資案件と連携。

(注)EPSA2では、日本単独で、5年で20億ドル(年平均4億ドル)の目標。EPSA3では、アフリカ開発銀行と共同で、3年で33億ドル超(うち日本側18億ドル)の目標。日本側の年平均額は6億ドル(高効率石炭火力特別枠を除くと年平均5億ドル)。

質の高いインフラパートナーシップ

参考

- アジア地域の膨大なインフラ整備需要に、各国・国際機関と協働し、日本の官民の力を総動員して対応。
- 今後5年間で、日本が500億ドル強、ADBの貸付能力拡大による500億ドル強と合わせ、合計約1,100億ドルの質の高いインフラ投資をアジア地域に提供。
- これを触媒として、民間の更なる資金とノウハウを呼び込み、質・量ともに十分なインフラ投資を実現。
- 今後、各国・国際機関と協働しつつ、質の高いインフラ投資をグローバルに推進。

【質の高いインフラとは】

- 経済性(ライフサイクル・コストの低減等)
- 安全性
- 自然災害への強靱性
- 環境・社会への配慮
- 現地の社会・経済への貢献(技術移転、人材育成)

【質の高いインフラパートナーシップを支える四本の柱】

1. JICAの支援量の拡大・迅速化
2. ADBとの連携
3. JBIC等によるリスクマネーの供給拡大
4. 質の高いインフラ投資の国際的スタンダード化・グローバルな展開

